

ミレニアム・プロジェクト(新しい千年紀プロジェクト)について (平成11年12月19日 内閣総理大臣決定)

1 ミレニアム・プロジェクトの基本的な考え方

新しいミレニアム(千年紀)の始まりを目前に控え、人類の直面する課題に応え、新しい産業を生み出す大胆な技術革新に取り組むこととし、これを新しい千年紀のプロジェクト、すなわち「ミレニアム・プロジェクト」とする。具体的には、夢と活力に満ちた次世紀を迎えるために、今後の我が国経済社会にとって重要性や緊急性の高い情報化、高齢化、環境対応の三つの分野について、技術革新を中心とした産学官共同プロジェクトを構築し、明るい未来を切り拓く核を作り上げるものである。

(高齢化分野)



ミレニアム・プロジェクト(高齢化分野)の厚生労働省分の概要

平成16年度予算額(案)

- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構(仮称)運営費交付金(内数) 54.5億円
- ・厚生労働科学研究費補助金 34.5億円

合計 89.0億円

1 ヒトゲノム解析関係

《痴呆》

国立精神・神経センター

- 2004年までに
- ・疾患関連遺伝子等を20以上発見
 - ・最適な投薬等による治療成績の向上
 - ・痴呆推計院患者数を20%削減する等の画期的新薬の開発に着手

《がん》

国立がんセンター

- 2004年までに
- ・疾患関連遺伝子等を50以上発見
 - ・嘔吐等の副作用の発生を50%削減
 - ・5年生存率を20%改善する等の画期的新薬の開発に着手

《糖尿病》

国立国際医療センター

- 2004年までに
- ・疾患関連遺伝子等を30以上発見
 - ・最適な投薬等による治療成績の向上
 - ・糖尿病推計院患者数を20%削減する等の画期的新薬の開発に着手

《高血圧》

国立循環器病センター

- 2004年までに
- ・疾患関連遺伝子等を30以上発見
 - ・最適な投薬等による治療成績の向上
 - ・循環器病推計院患者数を20%削減する等の画期的新薬の開発に着手

《ぜんそく》

国立成育医療センター

- 2004年までに
- ・疾患関連遺伝子等を20以上発見
 - ・最適な投薬等による治療成績の向上
 - ・喘息の死亡者数を20%削減する等の画期的新薬の開発に着手

《薬剤反応性》

国立医薬品食品衛生研究所

- ・疾患関連遺伝子・薬剤反応性関連遺伝子等を発見
- ・最適な投薬等による治療成績の向上

その他、これらの研究を支える研究として、組織バンク・DNAバンク等、家族性の疾患の遺伝子等の研究、遺伝子治療を確立するための研究等を実施

2 再生医学関係

《骨・軟骨》

- <主な対象疾患>
間接リウマチ、骨粗鬆症、大腿骨頭壊死
- <主な実施機関>
北里大学、名古屋大学、京都大学再生医療研究所

《血管》

- <主な対象疾患>
動脈硬化症、狭心症、心筋梗塞
- <主な実施機関>
国立循環器病センター、横浜市立大学、東京大学、慶應義塾大学

《神経》

- <主な対象疾患>
脳梗塞、パーキンソン病
- <主な実施機関>
国立精神・神経センター、東京大学、大阪大学、京都大学、岡山大学

《皮膚・角膜》

- <主な対象疾患>
床ぐずれ(褥瘡)、熱傷、皮膚潰瘍
- <主な実施機関>
東京大学、杏林大学、北里大学、東京歯科大学

《血液・骨髄》

- <主な対象疾患>
がんに伴う貧血、再生不良性貧血
- <主な実施機関>
名古屋大学、自治医科大学、名古屋第一赤十字病院

《移植技術・品質確保技術》

- <主な対象疾患>
難治性肝・脾疾患、腎不全
- <主な実施機関>
国立医薬品食品衛生研究所

3 食品関係

遺伝子組換え食品等の安全性評価に関する技術を確立し、疾病予防、健康維持のための植物の高品質化によるアレルギーフリー等の高機能食物を実現する。(国立医薬品食品衛生研究所、国立相模原病院、筑波大学等)